



子どもにまつわるお作法 2

3月の鶴小だよりの続きです。

お作法④ 子どもの問題を、自分の問題と思いき違いをしない

担任に事実関係を確認してもらったら、やっぱり自分の子がちょっかいを出されていたり、嫌なことを言われたり、暴力を受けたりしていたら、心穏やかではられません。それはそうですよね。

けれど、忘れてほしくないのは、「子どもの問題を、自分の問題と思いき違いしない」ということです。どういうことだと思いますか。僕が経験した例をお話ししましょう。

ある学級で、A君がB君から暴力を受けました。その前に、少し互いの行き違いがあったようです。もちろん指導して、親御さん双方にも連絡しました。その話を聞いたB君の親御さんは、B君を連れてA君のお宅へ謝罪に行きました。そこで、大変なことが起きてしまいました。

謝罪に行ったA君のお家で、今度はA君の親御さんがB君を平手打ちしてしまったのです。

この事例は、子どもの問題だったものを自分の問題と思いき違いをしてしまった、分かりやすい例です。相手の子どもに手をあげるというのは、ご自身の怒りのままの行動です。つまり、自分の気持ちを収めるための行動をとっているということになります。いつの間にか、子どもは置き去られ親御さん自身の気持ちを優先している状況です。

しかし、その親御さんはきっと、そうしてしまう位、悲しかったし、悔しかったし、わが子が不憫に思えて仕方なかったのだらうと思います。

そんな時は↓

まず、自分の心の中に湧き上がってきた負の感情を吐き出すことをしましょう。話を聞いてもらえる人に話をし、受容してもらうだけで随分楽になるはずですよ。負の感情がわき上がることを、恥ずかしいとか、ダメなこととは思わないでください。しっかり吐き出すことが大事です。

大人であっても、負の感情を上手に抱えるためには、その感情に寄り添ってもらう必要があります。大人（お父さんやお母さん）のための安全な避難所も必要なのです。

次に、この出来事は、自分の問題ではない、子どもの問題だということを改めて、きちんと意識し直しましょう。唱えるのもよいです。

最後に、親として自分ができること、すべきことは何かを考えてください。その時に大切なのは、考えた行動が子どものすべきことを横取りしない

か、自分の不安や怒りを収めるための行動になっていないかを確認することです。

子ども同士の問題は、あくまでも子どもの問題。解決のためのアクションは、子どもが起こさねばなりません。僕らが取るべき行動は、子どもを後押ししたり、自己決定を助けたりするための、あくまでも親としてのものであるべきです。

こう考えられるだけで、子ども同士は仲直りしたのに、親同士が納得いかないということもなくなるはずですよ。昔から、「子どものけんかに親が出る」って言われますよね。これは、恥ずかしいことと捉えられていたのをご存じですか。

※ただし、親が直接介入しなければならぬ緊急事態があることも付け加えておきます。

お作法⑤ 他人の子どもであっても、理解したり、理解しようとする

そうは言っても、子ども同士で何か起こると、相手の子どものことが悪く見えてしまって、何とかしたいなんて思ってしまうかもしれません。

そんな時は↓

以下のようなことを知識として知っておくと、冷静に対応できるのではないのでしょうか。

1つ目は、「子どもたちは、失敗しながら成長するもの」だということです。どの子どもも失敗します。わが子は、今回「される」側でしたが、「する」側になることも出てくるでしょう。だから、そのことも踏まえて対応すべきなのです。

2つ目は、「子どもによって発達に偏りがあったり、気質としての難しさがあったりする」ということです。そういった子どもは、育てにくいのです。ついつい、トラブルがあると相手の保護者は・・・となりますが、当たり前で育てれば、うまくいくというお子さんばかりではありません。

3つ目は、「様々な状況に置かれている子どもがいる」ということです。家庭環境等、子ども本人では如何ともしがたいことで、もしかしたら苦しい思いをしている子がいるかもしれません。

どのような子であれ、悪いことは悪いと教えなければなりません。しかし、様々な子どもを思うと、よい・わるいだけではない見方も必要です。未熟な子どもたちは、一緒に関わり合いながら成長します。様々なことを互いにしたりされたりします。そう考えると、**みんなの子ども愛すべき、愛されるべき存在である**と言えるのではないのでしょうか。

保護者の皆様、今年度も鶴小だよりにお付き合いいただきありがとうございます。感謝です！！